

## 問題行動への対応－COMPAS ノートの説明用－

問題行動への対応を、COMPAS（長澤・松岡,2003）に基づき、COMPAS ノートとしてまとめました。ノートを活用するときのマニュアルです。この説明を参考にして、担当されている事例についてCOMPAS ノートに記入することをおすすめします。

### I 問題行動の分析・対応のヒント（機能的アセスメント）

主たる問題行動を特定化し、以下の内容について分析すること。今起きている問題行動に直接働きかける方法である。

#### 1. 問題行動の分析

##### (1) その問題行動が頻繁に起きる状況を分析する

問題行動がしょっちゅう起きるのは、どんな教科の時間か？ どういう状況か？ どういう課題のときか？ どういう指示に対してか？ 考えられることを①に書くこと。

##### (2) 問題行動を具体的に定義すること

どんな行動なのか具体的に②に書く。さらに、その問題行動がどんな意味（機能）を持つのかを分析すること。問題行動の意味とは、要求（何かが欲しい）、逃避（その状況が嫌だ、逃れたい）、注目（自分に関心を持って欲しい）、自己防衛（自信がない、自信がないことを知られたくない）、自己刺激（退屈、自己充足）の5つが知られている。

##### (3) 今までの対応とその成果を分析する

(2)の問題行動に対して、今までどのように対処してきたか具体的に③に書くこと。さらに、その対応が有効であったかどうかを振り返ること。

#### 2. 問題行動の分析から対応の検討

1の対応で有効だと考えられる対応は継続するが、新たな対応を以下の手続きで検討する。

(1) 問題行動が頻繁に起きる状況の分析から、問題行動を起こさない工夫を考えること。例えば、課題の与え方の工夫、指示の仕方・言い方の工夫、集中できるようにするための環境づくり、学習支援などがある。今できる対応を④に書くこと。

(2) 問題行動にかわる別の行動で、社会的に認められる行動を考えて⑤に書くこと。例えば、注目して欲しくて大声を出しているのであれば、挙手して発言を認めてもらうのように、生徒の要求や気持ちを認められるような表現方法をきめることである。

社会的に認められる望ましい行動がすぐにはできないときには、「(よくはないけど) 悪くはない状態」を想定すること。

(3) 上記の行動ができたときに、どのようにほめたり認めたりするかを考えて⑥に書くこと。例えば、大声を出さずに挙手して訴えたときには優先的に指名し、約束通りできたことをほめるなどである。

(2)で想定した「悪くない状態」もほめたり認めたりすることが望ましい。

◎問題行動の分析・対応の例を「問題行動の分析・対応の例」で確認してください。

### 3. 授業の様子・学級の雰囲気

問題行動が頻繁に起きる授業だけではなく、対象生徒が在籍するクラスの雰囲気や様子で気になることを書くこと。その上で、改善できる対応について「改善のための対応」に書くこと。

### 4. 障害特性への配慮

学習障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）などの発達障害を有している場合、それらの特性に適した対応や配慮を考え実行すること。

ADHD への対応は、さまざまな問題行動に対しても役立つことがある。そこで ADHD に有効だと考えられる対応を積極的に取り入れることを検討すること。以下にいくつか示したが、これはあくまでも有効だとされている対応の例であり、生徒の実態に応じて選択したり修正したりすることが大切である。

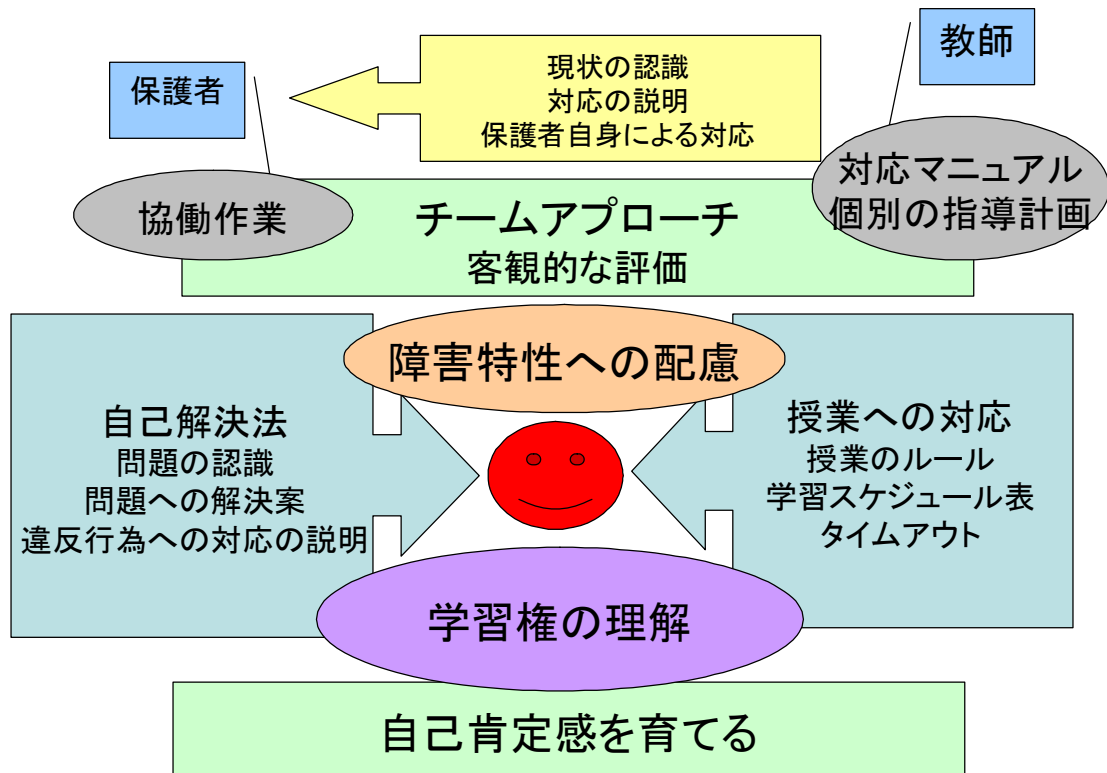
- ①生徒の行動をすばやく評価すること（うまくできた、もしくはできなかったことへの評価）
- ②指示は短く簡潔に。しつこく言わないこと
- ③「○○してはいけません」ではなく「～しましょう」のように肯定的な目標を設定すること
- ④大人はいつも一貫した態度を維持すること
- ⑤目標やルールが視覚的に確認できるよう工夫すること（約束表の提示など）
- ⑥くどくど説明するよりやってみせること
- ⑦問題を大局的にとらえること。小さな問題は取り合わず、ルールを冷静に繰り返し言うこと
- ⑧完璧でなくとも、悪くない状態を認めること

参考 Web サイト：<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/201469.pdf>

## II 包括的な対応

問題行動の改善だけではなく、生徒の全人格的発達をうながすために、考えられる対応を包括的にかつ計画的に実行するための指導方法を具体的に考える。

## 問題行動への対応(概念図)



### 1. 生徒の自己肯定感を高める

#### (1) 本人の悩みへの対応

生徒の悩みに耳を傾け、十分に聴いてあげること。どのような悩みなのかをノートに記入すること(1-1)。

#### (2) できることをのばす教育的支援

生徒のできること・得意なことを見つけて伸ばすこと。生徒のできること、得意なことをノートに記入すること(1-2)。

#### (3) 授業中良くできたこと、当たり前前の態度を必ずほめること

悪くない状態のときには必ず評価すること。ほめる行動をいくつか具体的に考えてノートに記入すること(1-3)。

### 2. 支援チームを作る

問題にかかわる支援組織を設置する(担任、教科担任、学年主任、養護教諭、管理職、スクールカウンセラー、外部の専門家、学校評議委員、民生委員、保護者など、必要に応じて)。支援チームの設置の有無・メンバー構成をノート(2)に記入すること。

### 3. 教師用対応マニュアルを作成する

指導の一貫性(全員が同じ対応を)を図るために、対応マニュアルか、もしくは個別の指導計画を作成すること。作成の有無とその内容をノート(3)に記入すること。以下に個

別の指導計画の例を示した。

指導計画の例(個別の指導計画):授業中の私語に対応する			
指導場面の設定	行動の定義	結果への対応	指導者
授業のルールの事前確認  補助プリントの使用  問題行動が起きない工夫	<望ましい行動> 手をあげて発言する  <悪くない状態> 学習はしていないが私語もない  <問題行動> 私語  授業に影響する私語	指名して話を聞く  私語をしないことをほめる  ルールを確認する  タイムアウト	担任        空き時間教師

#### 4. 学級全体で授業のルールをきめる

##### (1) 授業のルールの確認

- ①学級全体で授業改善について話し合うこと。その際には教師が介入し、話し合いのルールを徹底すること(4-1)。
- ②ルールを守っているかどうかの確認方法をきめること(4-2)。

自己評価カードの例(小学校)

3つの やくそくが まもれたときは、○をつける。  
 1つでもまもれなかったときは、△をつける。  
 ① きょうしつでのじゆぎょうのときは、いすにすわる。  
 ② てをあげて なまえを よばれてから じぶんのはなしをする。  
 ③ せんせいが いったことを まもる。

にち ようび	げつ	か	すい	もく	きん	げつ	か	すい	もく	きん	た ら せ ん せ い か ら の ポ イ ン ト が 十 こ た ま つ
1											
2											
せんせい											
3											
4											
せんせい											
お家の 方の印											

③授業の前に、きめられたルールと授業の流れ（学習スケジュール表を使用、例を以下に示した）を提示すること(4-3)。

**\*学習スケジュール表\***

学習スケジュール表を用いて、学習の見通しを具体的・視覚的に提示すること。さらに、できたかどうかの自己評価をさせること。作成の手続きは次の通りである。

## 学習スケジュール表(国語)

例

学習活動	学習内容	評価
1.音読	・教科書を音読する (ひらがなシートの使用)	
2.読みとり	・ノートに主人公のせりふを書く	
3.漢字	・教科書〇頁の漢字をノートに書く	

**授業のルール:手をあげてから発言しましょう**

- 1) 授業内容を具体的に示す
- 2) 個人目標を設定し、自己評価することを教える
- 3) 場合によって親が点検する

学習スケジュール表を作成した教科と内容をノートに記入すること(4-3)。

### 5. 生徒が自分自身で問題解決する

生徒本人に対して、自分で問題を解決できるよう支援すること。

#### (1) 問題を自己認識する

- ①自分がしている行為が違法行為（学習権、人権の侵害であること）であることを冷静に説明すること。必要があれば、問題を起こしている状況をビデオ等で示すこと。
- ②問題を起こしている状況を含め、自分が置かれている状況が自分自身にとってためにならないこと（不利益になること）を説明すること
- ③違法行為をした理由を問題にするのではなく、どのような理由であれ結果が違法行為であることを説明すること

生徒が自分の問題行動をどのように認識していたか、ノートに記入すること(5-1)。

#### (2) 授業中の行為への対応の自己解決

①ルールを守るための対応を自分で考える

問題行動を起こしたくなる状況や心情を受け止めながらも、問題行動にかわる別の行動を自分で考えることができるよう支援する。

②目標（約束）をきめる

生徒が必ず守れる約束（問題行動にかわる別の行動）をきめ、ノートに記入すること(5-2)。

③必要な支援を約束する

ルールが守れるために教師ができる支援をきめて生徒と約束し、ノートに記入すること(5-2)。特に、学習が遅れていたり学力に弱さのある生徒に対して、学習支援は不可欠である。個別に提供できる学習支援をいくつか提示し、本人に選択してもらうこと。

(3)違反行為への対応の説明

約束が守れないときには、他の生徒の学習権を守るためにタイムアウトをして別室で指導すること、教師が対応できないときは保護者に対応してもらうことを説明すること。違反行為への対応をノートに記入すること(5-3)。

参考までに、生徒との話し合いのときに注意すべき事項を以下にまとめた。

①冷静に話し合い感情的にならないこと

②相手の話を最後まで聞いてから反論すること

③生徒に誤解を与えないよう、真剣な態度で聴くこと

④論点はひとつにきめて話し合いのテーマを明確にすること

⑤教師自身がキレないこと

## 6. 保護者による問題解決と学校との連携

### (1)問題の現状と学校の対応を説明する

生徒が起こしてきた問題行動を具体的に説明すること。その際、教師の主観ではなく事実に基づく説明を心がけること。例えば、「授業中の態度が不真面目でみんなの迷惑になっている」ではなく、「数学の時間には教科書ノートを出さず、大声で授業に関係ないことを1時間に20回以上話す」のように伝えること。

### (2)違法行為への対応の説明

問題行動に対して今まで学校がとってきた対応とその成果、さらにはその対応だけでは限界があることを具体的に説明すること。その際、問題行動ではなく違法行為であると説明すること。生徒や保護者を責めるのではなく、事実を冷静に伝えること。(1)(2)への保護者の認識をノートに記入すること(6-1)。

### (3)保護者自身による対応の協力を要請する

このような違法行為は周囲の生徒だけではなく本人にとっても利益にならないことを説明し、問題解決に向けて積極的に対応するようながすこと。対応の例を以下にまとめた。

①学校との連携の緊密化（定期的な情報交換など）

②学習の点検（学習スケジュール表の点検、学習支援など）

③本人との話し合い

本人と話し合い、親の方針を伝えながら、学校のルールを守ることを約束させること。

その際、絶対に暴力・体罰の使用をしないよううながすこと。

④タイムアウト時における保護者自身による対応（保護者が学校に来て子どもに対応するなど）

保護者と合意できた保護者による対応をノートに記入すること(6-2)。

## 7. 結果を客観的に評価する

- (1) 教師も保護者も、完璧ではないことを認めて悪くない状態を必ず評価すること
- (2) 授業ごとに対象生徒を含めたすべての生徒の授業態度を評価すること
- (3) 教師自身も授業の準備や工夫、生徒への対応などを自己評価すること
- (4) 対象生徒を含む生徒児恣意が自己評価すること

\*具体的な評価は「Ⅲ 評価」で実施する。

## Ⅲ 評価

時期をきめて指導結果を評価し、ノートの評価の欄に記入すること。

### 1. 生徒の自己肯定感を高める

- (1) 本人の悩みへ対応できたか、ノートに記入すること
- (2) できることをのばす教育的支援の指導結果をノートに記入すること
- (3) ほめることができたか、ノートに記入すること

### 2. 支援チームを作る

支援会議開催の回数と主な内容をノートに記入すること。

### 3. 教師用対応マニュアルを作成する

対応マニュアル（個別の指導計画）の活用と成果をノートに記入すること。

### 4. 授業のルールをきめる

#### (1) 授業のルールの確認

どのようにルールを提示したか、そのルールを守れたかをノートに記入すること。

#### (2) 生徒への基本的な対応

基本的な対応が実施できたかどうか、成果もあわせてノートに記入すること。

#### (3) 学習スケジュール表の実施結果と効果を、ノートに記入すること

### 5. 生徒が自分自身で問題解決する

#### (1) 問題を自己認識する

自己認識の変化を、ノートに記入すること。

#### (2) 授業中の行為への対応の自己解決

問題行動の改善など目標の達成状況と学習支援の成果を、ノートに記入すること。

#### (3) 違反行為への対応

違反行為への対応の実施結果と効果を、ノートに記入すること。

### 6. 保護者が問題解決する

#### (1) 問題の現状と学校の対応

説明に対する保護者の認識と変化を、ノートに記入すること。

#### (2) 保護者自身による対応の協力

保護者による対応の実施結果を、ノートに記入すること。

7. 客観的に評価する

(1) 問題行動の変容

I-2-②と⑤について、問題行動と望ましい行動、悪くない行動それぞれの変容を記述する

(2) 三者による評価

① 授業態度の評価

② 教師・保護者の評価

③ 生徒本人評価

それぞれの対応項目をノートの該当番号で確認すること。